



© World Scout Bureau Inc. / Photo: Kalousek

# THE ESSENTIAL CHARACTERISTICS OF SCOUTING

スカウティングの本質的特徴(更新版)



**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World

SCOUTING DEVELOPMENT



**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World

© World Scout Bureau Inc.  
Scouting Development  
November 2019

World Scout Bureau Global Support Centre  
Kuala Lumpur

Suite 3, Level 17  
Menara Sentral Vista  
150 Jalan Sultan Abdul Samad  
Brickfields, 50470 Kuala Lumpur  
MALAYSIA  
Tel.: + 60 3 2276 9000  
Fax: + 60 3 2276 9089  
worldbureau@scout.org  
scout.org

© 2019. World Organization of the Scout Movement.  
All rights reserved.

This document is primarily for National Scout Organizations (NSOs) and National Scout Associations (NSAs).

The production of this document was made possible thanks to the Essential Characteristics of Scouting special group of the Educational Methods Work Stream of the 2017-2020 triennium. Their contribution to the development of this content is deeply appreciated.

Reproduction is authorised for NSOs and NSAs, which are members of the World Organization of the Scout Movement. Credit for the source must be given in the format of: © 2019. World Organization of the Scout Movement. Reprinted with permission.

本資料は各国スカウト連盟のために作成されました。

本資料の作成は、2017年から2020年までの3年期の「教育法作業部会の元、『スカウティングの本質的特徴』見直し班のおかげで可能となりました。本資料の開発における彼らの貢献に深く感謝の意を表します。

複製は、世界スカウト機構の加盟員である各国スカウト連盟に許可されます。出典のクレジット表記は、© 2019. World Organization of the Scout Movementとします。許可なく転載することを禁じます。

# THE ESSENTIAL CHARACTERISTICS OF SCOUTING

**This document is an update of the original document produced in 1998, which was titled "The Essential Characteristics of Scouting."** It aims to provide a compact but comprehensive overview of the key elements that characterise our Movement, ensuring that Scouting remains relevant by aligning the educational proposal with societal changes.

This review takes into account the work undertaken since 1998 throughout the World Organization of the Scout Movement, particularly the policies, documents, and constitutional changes adopted by World Scout Conferences, the conclusions of World Scout Education Congresses, and the most recent commentaries on education such as the last UNESCO report - Rethinking Education (2015), the Incheon Declaration: Education 2030 (UNESCO and UN System, 2015), the principles on how people learn from The Nature of Learning (OECD, 2010), and the United Nation's 2030 Agenda for Sustainable Development.

本資料は、「スカウティングの本質的特徴」と題された、1998年に作成されたオリジナル版を更新したものです。その目的は、我々の運動を特徴づける主要な要素について簡潔かつ総合的に見渡すことであり、それにより、スカウト運動が、その教育的提言を社会の変化と協調させることにより時代に即した存在であり続けることが可能となります。

この見直しは、世界スカウト機構が1998年から取り組んできた作業、とりわけ、世界スカウト会議により採択された方針、文書、憲章の修正、スカウト教育会議の成果、並びに前回のユネスコ報告書「教育を再考する」（2015）、インチョン宣言「教育2030」（ユネスコおよび国連システム、2015）、「学習の本質」（経済協力開発機構、2010）から人々がどのように学ぶのかに関する指針、および国連による「持続可能な開発のための2030アジェンダ」など、教育に関する最新の解説を考慮に入れています。



# CONTENTS

<b>Introduction</b> 序論	6
<b>Scouting's educational approach</b> スカウティングにおける教育的取り組み Contributing to the education of young people... 青少年の教育に貢献する	7
through a system of progressive self-education... 進歩する自己研鑽システムを通して…	8
through a system of progressive self-education... 進歩する自己研鑽システムを通して…	14
based upon a value system. スカウト運動の価値観（ちかいとおきて）に基づいて	22
<b>Scouting's defining elements</b> スカウティングを定義づける要因	25
A Movement...(運動)	26
for young people...(青少年のための)	28
voluntary...(自発的な)	30
open to all...(すべての青少年に開かれた)	32
non-political...(非政治的な)	34
independent...(独立した)	36
<b>Appendix: additional reading</b> 付録: 補助書籍・文書	38



© World Scout Bureau Inc. / Petr "Robinson" Kalousek

訳者注：原文中の「Scouting」は、文中の説明内容によって、日常の「活動」や、青少年団体を象徴的な意味で表す「運動」を示しています。本資料では、読者の読みやすさと原文の表すニュアンスを大切にするため、そのまま「スカウティング」として訳すこととしました。

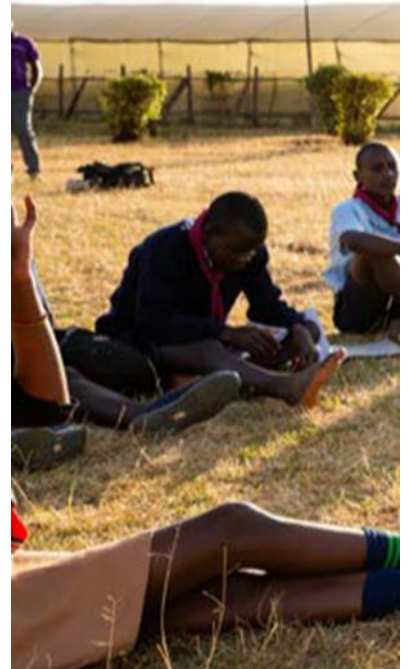


# INTRODUCTION

“全世界の若い市民、男女が、彼らの隣人を、お互いに奉仕し思いやりをもって助け合うという共通の目的で結びついている人類の兄弟姉妹として見られるよう育成されれば、彼らは、もはや以前のような敵に対する戦いという観点ではなく、お互いの平和と友好という観点から物事を考えるだろう。”

ロバート・ベーデン=パウエル (1922)

『恐怖から愛の教育へ』



## THE IDEAS ON WHICH SCOUTING IS GROUNDED スカウティングの 基本となる考え

スカウティングは、その始まりから、全人類は平等に尊厳を有し、全ての少女、少年たちは唯一無二の価値を本来備え、彼らは、同じ人間同士、また自然と協調しながらともに生きていくという課題に対して新たな答えを生み出す潜在能力を有している、という理想に基づいています。

これらは、多くの文明が共有してきた考えです。ズールー語の挨拶「Sawubona」には、文字通り、他人を認識する、すなわち「あなたを見る」という意味があります。

これらの理想は、「世界人権宣言」(1948) および「児童権利宣言」(1959) にも表明されてきた包摂性に対する責務を具体化しています。

スカウティングにおける相互尊重と開放性といったビジョン、未来に対する楽観主義、青少年への信頼は、青少年と成人が相互に、また各々から学ぶことができるという信念と共に、それらの教育に対する行動指向的な、斬新な取り組みにも織り込まれています。

スカウティングの教育的取り組みは、満たされた人生を築き、持続可能な開発に向けて努力するために必要な能力を、青少年に与えることを目的としています。これらの能力は全て、運動として我々をひとつに結び付けるスカウティングの本質的特徴である、共通のアイデンティティおよび教育的取り組みに貢献します。



© WSB Inc. / Enrique Leon

# SCOUTING'S EDUCATIONAL APPROACH

スカウティングにおける  
教育的取り組み

# Contributing to the education of young people...

青少年の教育に貢献する...

## THE PURPOSE OF THE SCOUT MOVEMENT

### スカウト運動の目的

スカウト運動の目的は、青少年が、個人として、良き市民として、また、地域、国、国際社会の一員として、彼らの身体的、知的、情緒的、社会的、精神的可能性を十分に実現できるように、青少年の成長に貢献することである。

世界スカウト機構憲章



© WSB Inc. / Annie Weaver

### EMPOWERING INDIVIDUALS AND CITIZENS 個人および市民 に力を与える

スカウティングにとって、2つの側面 - 個人として、そして市民として成長すること - は切り離すことができません。なぜなら、教育は、個人の持つ可能性を最大限に発達させることへの探求なしには、完遂できないからです。しかも、地域、国、国際社会の一員として、自由に、責任を持って他者、そして自然と共に暮らすことを学習することなしには教育はできないからです。

スカウティングは、教育的運動として、全ての新たな世代の青少年が、他者や自然と協調しながら共に生活し、より良い世界を創るための一翼を担うことによって、公平な自由と尊厳を目指し、感じながら、それぞれの人生の旅を鼓舞する課題に新た

な答えを生み出す可能性を秘めていることを信じています。スカウティングは、また、教育の目標が、潜在能力を発揮させること、自己実現できる個人に成長させること、そして、行動的な地球市民を育てることであると考えています。

スカウティングの目的を達成し、青少年を行動する市民に成長させるために、スカウト運動に参画する各個人は、安全な環境を提供することによって、子供と青少年の健康で幸せな成長と安全を保証する責任を負っています。





## EDUCATION TODAY 今日の教育

### NEW GLOBAL CHALLENGES 地球規模の 新たな課題

前例のないほどの変化、複雑性、そして矛盾が、以下のような世界が今日直面している多くの課題を特徴づけています。：

- あらゆる開発をいかに持続可能にするか。
- 経済成長の影で、増加しつつある脆弱性、不平等、排斥、暴力、そして文化的、宗教的な不寛容といかに戦うか。
- 女性や少女たちに対する性的不平等や暴力をいかになくすか。
- 経済的生産および消費の持続不可能な形態によって生み出される、気候変動や環境悪化、自然災害の急増にいかに立ち向かうか。
- あらゆる場所、あらゆる人々のために、人権、市民権をいかに正しく実現し守るか。
- 紛争、身体的、精神的虐待、そして構造的、組織的暴力をいかに阻止、あるいは解決するか。
- 技術が急速に進歩する時代において、デジタル変革がもたらす社会的および経済的影響にいかに対応するか。

### THE SDG, A BASIC COMMON GLOBAL FRAMEWORK 持続可能な開 発目標—SDG、 基本的な世界 的共通枠組み

「持続可能な開発目標」（2015）は、これらの課題に対する認識を高め、回答を提案しています。

教育は、それら<sup>1</sup>を達成するために欠かせないもので、ユネスコが報告しているように、「生涯学習および生活のあらゆる場所での学習に対するオープンかつ柔軟な取り組み - 全ての人々が持続可能な未来および品位ある生活に対する自らの可能性を実現できる機会を提供する取り組み」<sup>2</sup>を必要としています。

スカウティングは、教育を、社会が、前の世代の経験や知識が、現代の課題に対応するための学習を通して、青少年に力を与えることを可能にする方法であると考えています。

教育は、広い意味において、個人として、また社会の一員として、人の能力が継続的に発達することを可能にする生涯にわたる道のりなのです。

1. 「持続可能な開発目標のための教育—学習の目的」 ユネスコ（2017）
2. 「教育を再考する—教育はグローバルな共有財になりうるか？」 ユネスコ（2015）



© WSB Inc. / Enrique León

## THE FOUR PILLARS OF LEARNING

### 学習の4本柱

学習は、全体的発達において一生涯継続する過程であり、それは、ユネスコのドローール・レポート<sup>3</sup>で定義されている以下の学習の4本柱の1つ1つによって均等に支えられています。：

- 「人間として生きることを学ぶ」：個人の人格を発達させ、一層の自律心、判断力、自己責任を持って行動できるようにする。
- 「知ることを学ぶ」：どのように学ぶかについて学ぶなど、特定の課題について深く学ぶ機会を得ながら、幅広い一般知識を持つ。
- 「為すことを学ぶ」：職業能力だけでなく、多様な状況に対処しチームで働く能力を獲得する。
- 「他者と共に生きることを学ぶ」：他者を理解し、相互依存を評価し、民主主義や相互尊重、平和、正義の価値を順守する。

現代社会では、伝統的な学習より、さらに多くの学習が要求されます。教育には、創造力や知識、高度な認識力、対人および社会的能力を育てること、市民が健康で充実した生活を送り、十分な情報をもとに熟考した上で判断を下し、地域や国際的課題に対応できる能力を伸ばすことが期待されています<sup>4</sup>。それは、教育というものが、その範囲や期間の双方において、学校教育をはるかに超えたものであるからです。

スカウティングの創設時より、次世代の青少年は、皆、教育を通じて、社会的、国際的課題を認識し、それらに対応できるよう取り組んできました。ベーデン＝パウエルが1920年にボーイスカウト国際事務局（1961年、世界スカウト機構に改称）を創設した際、彼は、国際連盟の普遍的な価値観をスカウティングにも取り入れました。その価値観は、後に国連の創始価値観として採用され、発展して、現在、地球市民の価値観となっています。

平和と人権、世界的連帯と発展、環境とその持続可能性、異教間および異文化間の対話に対するスカウティングの貢献は、常に、スカウト運動が持つ膨大な多様性への理解と尊重、およびそれらとの共存を促す教育的手段となってきました。世界中から何千人もの青少年が定期的に集う世界スカウトジャンボリー、毎年開催される無数の国際キャンプや世界中のスカウトの交流会が、この目的に貢献してきました

3. 「学習 —秘められた宝『21世紀教育国際委員会』によるユネスコへの報告書」ユネスコ（1996）
4. 「インチョン宣言『教育2030』」 世界教育フォーラム、ユネスコ（2015）

# HOW, WHY, AND WHERE EDUCATION HAPPENS

## いかに、なぜ、どこで、教育は生まれるのか

### HOW PEOPLE LEARN

#### 人はいかに 学ぶのか

教育が、現代の課題に取り組むには、「人はいかに学ぶのか」という問いに対して強力な概念的枠組みと実証的な証拠が必要となります。以下の7つの原則が、あらゆる状況において「人はいかに学ぶのか」という問いに関する既存の知識を要約しています。<sup>5</sup>

1. 学習者は、学ぶ過程の中心におかなければならない。
2. 学習は、社会性を身に着ける過程である。すなわち、ほとんどの場合、協調が必要となる。
3. 感受性と動機付けは、学習に不可欠である。
4. 学習は、個人差を考慮に入れなければならない。
5. 挑戦と努力は、学習の要であり、負担ではない。
6. 建設的なフィードバックと期待の明確さが学習に有利に働く。
7. 学習は、知識の様々な分野、地域、そしてより広い世界の横のつながりを構築する際に、好都合である。

### WHY PEOPLE LEARN

#### 人はなぜ学ぶのか

私たちは、変化、複雑性、そして矛盾によって特徴づけられる世界に生きています。2015年のユネスコ報告書は、教育における深い意義とともに、学習における新たな世界的背景の出現を指摘しています。それは、私たちが、学習教育の目的 — なぜ、何を学ぶのか、学習の組織化、いかに、どこから学ぶのか — を再考する必要があることを提案しています

### WHERE PEOPLE LEARN

#### 人はどこで学ぶのか

学習は、異なる環境で生まれますが、ユネスコ（国際標準教育分類 2011）は、伝統的に以下の3つの環境を定義しています。

- **フォーマル教育** — 公的機関や認証された民間機関によって制度化された、意図的、計画的な教育であり、国家における正式な教育システムを総合的に形成する（学校制度や大学など）
- **インフォーマル教育** — 意図的あるいは熟考されているが、制度化されていない学習の形態。家庭や職場、地域、および日常生活で行われる、個人、家族、社会指向な学習活動を含む（家庭や地域での教育など）
- **ノンフォーマル教育** — 教育提供者によって制度化された、意図的、計画的な教育であり、個人の生涯教育の過程における、フォーマル教育の追加、代替、補完教育（スカウティング、ユースワーク、生涯学習の取り組みなど）

5 「学習の本質 — 教育の活用から実践へ」 OECD (2010)





© WSB Inc. / Enrique Leon

## BLURRING BOUNDARIES OF EDUCATION TYPES

教育形態のぼやけた  
境界線

しかしながら、この教育環境の明確な境界は、ぼやけつつあります。なぜなら、「伝統的な教育機関から、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマル学習が、様々な教育機関で行われる複雑多様な学習環境への移行があるからです。<sup>6)</sup> この発展により、フォーマル教育とノンフォーマル教育の間に、興味深い、新たな生産的協力関係が築かれるかもしれません。

それにも関わらず、多くの国では、たとえ、伝統的な教育環境の中でさえ、多くの学習が教室以外の別の場所で行われているとしても、未だ、学校モデル（フォーマル教育）は、学習を、主に教室での授業に結びつけています。現在、教室主体の学習は、情報化時代における知識へのアクセスの増大、今日、多くの学校が採用している学習者主体の取り組み、また、教室とは別の学ぶ場所の出現によって困難に直面しています。

スカウティングの大きな目的は、時代遅れとなった慣行に固執するよりも、あるいは他の教育環境において効果的に採用されてきた慣行の排他性を主張するよりも、青少年の十分な成長に貢献できる新しい方法を模索し続けることを必要としています。

6. 「教育を再考する－教育はグローバルな共有財になりうるか？」ユネスコ（2015）



© WSB Inc. / Australia

スカウティングを普及させ、青少年にとって意味のあるものに行っている教育的アプローチは、ノンフォーマル主流の教育が増々ノンフォーマルな方法を利用するにつれて試され続けるでしょう。この分野におけるスカウティングの成功は、学習が、大抵、青少年によって選ばれる楽しいアクティビティやゲームを通して、また、仲間との小さなチーム内で行われることに起因します。発育年齢でのグループ分け（部門）を効果的に利用することにより、青少年は、責任と当事者意識を持ち、彼らにとって重要な事柄を調査し、行動を起こすよう力づけられるのです。

彼らは、これらの有意義な経験を通して、積極的な学習者であり続け、より困難な課題に取り組む自信を持ち続けます。この精神は、成人指導者に、青少年が各々の個人的な旅を通して成長し、確実にスカウティングのゲームを楽しみ、そこから学べるよう、青少年を支援したいという意欲を持たせます。

# Through a system of progressive self-education...

進歩する自己研鑽システムを通して...

## THE YOUTH PROGRAMME 青少年プログラム

### YOUNG PEOPLE AT THE CENTRE 青少年を中心に

スカウティングは、自立した個人に自信を与え、行動する地球市民としての彼らの全体的な発達に貢献しています。スカウティングは、その目的を達成するために青少年と共同で創造され、スカウト教育法を通じて経験される、青少年が恩恵を受けられる学びの機会、すなわち「青少年プログラム」によってその貢献を実現しています。これらの経験は、青少年をその中心におき、成人が、青少年の学びの旅において、対話と協力を通して彼らの手助けをすることを可能とします。その旅の中で、成人もまた、経験を通じて成長し、それによって成人と青少年間の対話が豊かなものになります。

このプログラムを通して、スカウティングは、青少年に自信を与え、やる気を起こさせ、彼らが、現代社会において増大する複雑性、急速な変化と不確実性、そして曖昧性に立ち向かうための回復力を鍛えます。スカウティングは、青少年の周りに対話と協調の良好な枠組みを構築することにより、それを実現します。

青少年プログラムはまた、青少年が、自身のコミュニティや彼らが幼い頃から属している組織における意思決定プロセスに、積極的に参加することを可能にしています。さらに、このプログラムは、スカウトたちが、自分自身や他者に対して尊敬の念を抱き、スカウト間での活動や態度、交流から生まれるかもしれないあらゆる種類の危害を認識できるように教育し、青少年にとっての安全な環境を整備する手助けをします。<sup>7</sup>

スカウティングは、生涯学習におけるひとつのプロセスを提供しています。また、全ての青少年は、運動に参加できる機会を有していなければなりません。とはいえ、各国スカウト連盟は、彼らが属する社会の特徴と、その社会の中で起きている、青少年に影響を与える変化を考慮に入れ、各連盟の教育プログラムを注意深く検討する必要があります。

### COEDUCATION: FOSTERING MUTUAL RESPECT AND UNDERSTANDING BETWEEN GENDERS 男女共学：男女間の 相互尊重と相互理解 の育成

スカウティングは、彼らの活動と社会全体の双方において、その教育目的を達成し、男女を問わず、対等に、個人のニーズと希望、そして男女の機会平等および対等な協力関係という2つの原則に基づいて、全ての青少年に教育を施すことを約束しています。

スカウティングは、男女共学を、一人ひとりの個性と彼らが生活している社会の特徴を考慮に入れながら、男女を対等に成長させることを目的とした取り組みとして採用しています。また、少年少女や青年男女の教育ニーズに取り組み、様々な年齢層に従ったプログラムを採用しています。男女共学の取り組みは、性別の異なる青少年が、あらゆる活動と一緒に参加しなければならないことを意味するものではありません。

男女共学は、男女間の相互尊重と相互理解の育成を促し、青少年が、今日の社会に溶け込むための準備をする取り組みです。青少年は、スカウト・プログラムを通じて、スカウトの価値観が混在する環境の中で生活することにより、社会の模範となり、異なる性別、人種、年齢、宗教、個性、能力、経験や環境を有する人々の間で、相互尊重や建設的な意見交換が可能となる社会を率先して築いていくことができるようになります。

男女別の環境が基本の社会においては、各国スカウト連盟は、その活動に男女別の設定を取り入れても構いません

7 「セーフ・フロム・ハーム世界方針」, 世界スカウト機構 (2017) 参照



**PROGRESSIVE  
SELF-EDUCATION**  
進歩する自己研鑽  
システム

スカウティングは、自己研鑽の概念に基づいた、学習者主体の取り組みを採用しています。これは、青少年の加盟員一人ひとりが、初めから、あらゆる次元で成長でき、幼少期より自身の成長に関して責任を負う能力を有しているかけがえのない一人の人間とみなされていることを意味しています。すなわち、いかに学ぶかを学ぶこと、生涯学習に対して備えることを意味しています。自己研鑽の中には、それが、「人から指導」されることとは反対の、「自ら学ぶ」という概念に基づいていることが、暗に示されています。

この自己研鑽システムはまた、進歩を伴います。スカウト教育法は、同様の基本的要素を保持しつつ、それら要素を、幼児期から青年期の終わりおよび成人早期までの成長における、青少年の多様な発達段階に適応させています。それはまた、各々の年齢層の特徴を考慮に入れて、個々のペースを踏まえながら、新たな能力と関心の発見と発達を促し、次の段階への扉を開けています。



© WSB Inc. / Fredrik Sahström

## A SYSTEM: THE SCOUT METHOD

### ひとつのシステム — スカウト教育法

スカウティングにおける教育的取り組みは、自己研鑽や能力強化、協同学習を促す独自の教育システムである、スカウト教育法を通して実行されます。スカウト教育法は、あらゆる教育法と同様に、青少年を、彼らが獲得することとなる知識により近づける手段です。

スカウト教育法を活用することにより、青少年は、身体的にも精神的にも安全な環境の中で、教育的かつ楽しい経験をすることができます。スカウト教育法は、青少年および社会の変わりゆくニーズに柔軟かつ適切に対応することを目指しています。

#### EIGHT INTERACTING ELEMENTS 8つの相互に作用し合う要素

スカウト教育法は、8つの独立した要素が相互作用しながら一つの教育法というシステムを形成している。統合的なシステムとして共に作用するこれら等しく重要な要素と、それらの要素がそれぞれの年齢層で複合的およびバランスのとれた方法で実践されることによって、スカウティングは唯一無二のものになっています。

8つの要素それぞれが、教育的機能をし、他の要素の影響を互いに補完し合っている。

これらのスカウト教育法の重要要素は、それぞれを分離して考えることはできません。それらは、相互に作用し、以下から構成されるダイナミックな教育環境を創造しています：

- 歓迎の姿勢 — 成人指導者との対話と彼らからの支援
- 日常生活を評価し、豊かにする方法を決定づける「スカウトのおきて」の価値観
- 個人の目標への挑戦
- 「スカウトのちかい」から生まれる個人の責任
- 民主的意思決定プロセスを可能にし、青少年の能力強化を促す、チームと会議の枠組み
- シンボルの活用によって与えられる目的意識と帰属意識
- 特権的な自然環境の中での活動の魅力
- 他人に奉仕する喜びを通じて、青少年がコミュニティにおける役割を見出せる環境



## スカウトの ちかいと おきて

### A VOLUNTARY COMMITMENT TO A SET OF SHARED VALUES

価値観を共有し  
ようと心から沸  
き起こる誓いの  
気持ち

「スカウトのちかい」は、「スカウトのおきて」、すなわちスカウトの価値観を共有しようと心から沸き起こる誓いの気持ちです。それはスカウトの行動と目指す姿すべての基本です。スカウト教育法の中心にはこの「スカウトのちかいとおきて」が常に存在します。

「スカウトのちかい」を通して、スカウト一人ひとりが、意識的かつ自発的に「スカウトのおきて」を受け入れる決定をし、その遵守に「最善を尽くす」こと、「おきて」を個人的および社会的行動の規範として活用し、それによって、自分自身の個人的な発達に対する責任を有することを約束します。「スカウトのちかい」を立てることは、自己研鑽のプロセスにおける、象徴的な初めの一歩です。「スカウトのおきて」は、積極的な生活の規範であり、それによって、スカウティングは、その普遍的価値を、具体的かつ実践的な方法で青少年に与えることができます。おきての実践によって得ることができる、ちかいに表されるスカウトの価値観を通して、青少年は、その行動や団体生活の中で成長していきます。

スカウティングを「旅」に例えるならば、その旅に出かけることで青少年は「スカウトのちかいとおきて」に対する理解を深め、より一層意味のあるものにすることができます。この「学びの旅」は、スカウティングの重要な原理に重きを置きながら、スカウティングを通して育まれる知的、情緒的、社会的、そして精神的成長の核となっています。

## 行うこと によって学ぶ

### AN EXPERIENTIAL APPROACH TO EDUCATION

教育への試行的な  
取り組み

スカウティングは、継続中の学習と発達を促す為に、実践的行為(実生活の経験)と評価反省を活用しています。

行うことによって学ぶとは、教育に対するスカウティングの実践的取り組みです。それは、関心事の深掘りや日常生活で得られる経験を通しての学びに基づく、理論的な授業とは対極にある、直接の体験から得られる結果です。

スカウティングでは、知識、技能、態度や価値などの新たな能力は、楽しくて役に立つ様々な活動を実践することで身につきます。それによって、青少年は、行動し、ミスを犯し、反省し、発見します。そして、彼らが経験した全てのことから何が個人的に重要であるかに気付くことによって、様々な角度からそれぞれの個性を育むことが可能になります。



## 個人の成長

### MOTIVATING AND CHALLENGING TO CONTINUOUS DEVELOPMENT

成長し続けるための  
動機付けと挑戦

スカウティングは、個人に、多種多様な学びの機会を通して、成長し続けることへの意欲と挑戦の気持ちを持たせることに特化した、向上心に満ちた学びの旅です。

この取り組みによって、青少年は、自信につながり成長を促す進歩制度を通し、自分の年齢層に適応した教育目的に向かって、各々の方法とペースで自己を成長させることができます。この個人の進歩は、自主的なものであり、成人によって支えられています。成人は、青少年が自身の努力目標を定め、選択の自由を行使し、自己評価できるように、彼らを適切に励まし、後押しし、支援します。

この取り組みはまた、スカウト活動の外でも適用することができます。なぜなら、これにより、彼らは、自身が生きていく上での目標を定め、行動する市民となるすべを学ぶことができ、彼ら一人ひとりに、個人的なニーズを確認する機会と、各人の状況と実力に応じた、それぞれの能力を伸ばすために必要な資源が与えられるからです。

## チーム システム

### A TOOL FOR EMPOWERING YOUNG PEOPLE

青少年の能力を強化するためのツール

スカウティングは、効果的なチームワークや対人スキル、リーダーシップを向上させ、責任感と帰属意識を持たせることを目的として、人々が協働学習や意思決定に参加する方法として、組や班などの小規模チームを利用しています。

この手法は、団体生活を豊かに、また円滑にし、青少年の能力を強化するための効果的ツールに成り得ます。この手法により、青少年は、自身の技能や才能、経験を蓄積し、それらに磨きをかけ、共同で問題解決に臨むために必要な互助精神を伸ばすことによって、個人の能力と集団の力を高めていくことができます。

青少年が何かと小さなグループを作りたがるという特性に基づき、隊活動においてしばしば使われる基本的な組織単位は、通常6人～8人の青少年による小規模なチームで構成されます。このシステムは、共同で意思決定を行うためのあらゆる種類の小規模グループ（例えば、隊会議、地区委員会、イベント実行委員会、プロジェクト役員チームなど）にも適用されます。これにより、スカウトたちはまた、チームリーダーとしての役割を担う機会を与えられ、多様性を受け入れられるようになっていきます。他の青少年たちとの建設的關係や大人たちとの協力関係を築くことにも役立ち、民主的な自治とは何かを学ぶこともできるのです。

## 成人の支援

### YOUTH-ADULT PARTNERSHIP 青少年と成人の 協力関係

スカウティングにおいて、成人の存在はなくてはならないものです。成人は、青少年が学びの機会に出会えるように、青少年と協力しながら、彼らを手助けし支援することにより、学びの機会を意味のある経験に変えることができる成人であることが重要です。

スカウティングは、青少年と成人が、それぞれを個人として相互尊重、信頼、受容することにより、それぞれの情熱と経験を活かしながらお互いに協力し合う可能性を提供します。成人は、青少年が成長する過程で、彼らに教育や、感情、情報、評価の面で支援を行います。

教育面での支援は、具体的な手伝いや青少年の自己研鑽による成長を直接的に手助けすることです。感情面での支援は、人生経験を分かち合うことです。それによって、共感や、信仰、信頼、気遣いの感情が育まれます。情報面での支援は、青少年が問題に対処する際に活用できる、助言や提案、情報を与えることです。評価面での支援は、前向きなフィードバックや、個性の肯定、組織の価値の順守といった自己評価に有益な情報を与えることです。

対象となる青少年の年齢や能力に応じて、スカウティングにおける青少年と成人との関わり方は変わってきます。可能な限り、青少年は、意思決定する機会や、リーダーシップを発揮するプロセスに関与できる機会を与えられなければなりません。また、安全な環境において間違いを犯すこと（失敗すること）が許されなければなりません。一般的に、そこでの成人の役割は、青少年が学習経験を積めるよう、準備の手伝いをし、支え、導き、助言し、促すことです。要するに、スカウティングにおける成人の役割は、青少年主導のもとプログラムが進められるよう、支援することなのです。

## シンボルの活用

### A SET OF SYMBOLS, THEMES, AND STORIES 一連のシンボル、 テーマ、ストーリー

スカウティングは、テーマやシンボルを用いた一元化された構造を利用して、学習やスカウトならではのアイデンティティの発達を促しています。

スカウティングにおけるシンボルの活用とは、一連のシンボル、テーマ、ストーリーを利用することにより、帰属意識を強化し、一定の教育的メッセージを伝達し、グループや世界的なスカウト運動において結束と連帯を強めることです。それは、様々な要素とテーマで表現されることにより、スカウトたちがスカウティングの目的と価値観に共鳴するための手助けとなります。

それはまた、青少年の成熟度や具体的な教育ニーズに応じて、特定の年齢層に対するスカウティングの教育的提案を表現することにより、青少年プログラムにおける個人の進歩を認知することにも役立っています。シンボルの活用の目的は、青少年の成長を促すために、彼らの想像力、冒険心、創造性、発想力といった力を築くことにあります。

## 自然

### AN IDEAL SETTING PROVIDING A NUMBER OF LEARNING OPPORTUNITIES

多くの学びの機会を提供する理想的な環境

スカウティングは、より広い環境への理解を深めることができる、屋外で学ぶ機会を創ります。

自然界は、スカウト活動にとって理想的な環境を提供します。そこには青少年がその体力、知力、感受性、社会性、精神力を高めることができる冒険や学びの機会があります。隊活動では、ハイキングやキャンプといった従来の屋外活動から、環境維持や教育に関するプロジェクトに至るまで様々なテーマを扱うことができるでしょう。また、自然界が環境において限定的である場合でも、そこには依然として「屋外の」活動が存在するのです。

これらの経験により、青少年は、都会であれ、田舎であれ、また未開の地であれ、自然界に直接触れることが可能となり、それによって、人間と自然界の極めて重要な関係を発見し、自然との建設的な関係を築くことができるのです。

しかしながら、スカウト教育法の一つの要素として自然を取り入れることは、自然との建設的な関係を築くために大自然の中で行われる活動だけではなく、青少年の成長を促すために自然界から得られる学びの機会すべてを有効活用することを含みます。そこには、自然の中でいかに生きるかという課題に取り組むことによって、青少年の独創性を育み、成長を促すといった教育的価値が存在します。それは、個人間のより良い関係や尊重を生み出し、各人に持続可能な行動を促すことのできる、持続可能な取り組みでもあります。

ベーデン＝パウエルは、自然の教育的役割について、森林を例に次のように言っています。「君たちに目と耳さえあれば、森というものはたちまち実験室にも部活動の場にも寺院にもなるのです。」<sup>8</sup>

## 社会との協同

### EMPOWERING YOUNG PEOPLE TO BE ACTIVE GLOBAL CITIZENS

行動的な地球市民になれるよう青少年を後押しする

スカウティングは、人と人が理解を深め、互いに感謝の気持ちを育めるよう、社会やより広い世界に積極的に目を向け、関わる機会を提供します。

青少年が、彼らの（地域、国、世界といった）社会と向き合う、また、社会の中に入ること、彼らは、あらゆるレベルで自分たちの社会に関わり、異文化理解や国際連帯を深めることが可能になります。それは、青少年の成長過程における重要な要素であり、社会にいかにか奉仕するかを学ぶあらゆる機会に関連しています。奉仕とは、単に、他人のために行なうということではなく、その人の経歴がどうであろうと、他人と関わって、他人と共に行動することなのです。

社会との協同によって、スカウトたちは、より良い世界を築くことができます。それは、地域社会と関わることなく自分の力だけでは為し得ない旅でもあります。社会と関わることによって、青少年は、行動的な地球市民として、自分自身で責任を持って、社会でどのような役割を果たせるのか、また、地域をより良いものにするために何ができるのかを理解することができるようになるのです。成人になるのを待つことなく、我々はすでに幼少期から市民の一人であるという認識を持つことが重要なのです。

スカウト教育法におけるこの要素は、また、教育環境としての社会自体の教育的価値を高めています。アフリカに「子供を育てるには、村全体が必要だ。」ということわざがあります。

スカウティングでは、身近な社会、国、地域、そして世界における社会の役割が重要であると考えられ、その教育法に不可欠なものとなっています。

8. 『ローバーリング・ツウ・サケス』第8版、ロバート・ベーデン＝パウエル、ハーバート・ジェンキンス社、ロンドン(1930)





## AGE RANGES 対象年齢層

### ADAPTING THE PROGRAMME TO THE DIFFERENT AGE GROUPS

#### 異年齢グループへのプログラムの適応

子供たちを同じ年齢で分ける従来の学校制度と違い、スカウティングは、子供たちは、同じ方法や時間で学ぶわけではないという認識のもと、そのプログラムを、幼児期、思春期、青年期といった青少年の様々な成長段階に対応した複数の年齢グループに適応させています。

スカウティングは、それぞれの年齢グループ内において均質なグループを作ることを目指しておらず、むしろ、異なる年齢同士で活動することを目指しています。最年少と最年長の年齢差は、青少年を、それぞれの 関心や成熟度という点で、同じ成長段階や似たような特徴を持つ者同士でまとめる目的で区分されています。これにより仲間集団を作ることができるのです。

同時に、年齢差のおかげで、様々な経験や能力をもった青少年が集まります。これにより、協働的な学びの環境における重要要素である、仲間同士での指導システムの実践が可能になります。

## Based upon an inclusive value system...

包括的な価値システムに基づいて...

### THE SCOUT PROMISE AND LAW AND THEIR PRINCIPLES

#### 「スカウトのちかいとおきて」とその原理

#### SUMMARISING THE UNIVERSAL VALUES

普遍的な価値観のまとめ

スカウティングは、社会と社会すべてのメンバーの生活をより良いものにしたという、創設者の願いが基盤となっており、創設者は、社会において個人が成長することによってのみ、その目標が達成されると信じていました。

スカウティングにおいては、「個人の進歩」、すなわち教育プロセスは、スカウト教育法に盛り込まれている進歩する自己研鑽システムによって達成されます。スカウト教育法の基本要素のひとつが、「スカウトのちかいとおきて」であり、それは、行動の倫理規範（「スカウトのおきて」）を順守するために、個人が最善を尽くすことを自発的に宣誓（「スカウトのちかい」）することです。

「スカウトのちかいとおきて」とは、簡単に言えば、すべての人間と彼らの精神生活それぞれに固有の等しい価値、および彼らがお互いと、あるいは自然と共生するための目標を含める普遍的な価値観のことです。これらの価値観は、スカウティングが機能し、それなしではその運動がもはやスカウティングとはなりえない、重要な倫理的枠組みです。その結果として、スカウティングが、その創設時より、相関する倫理的規範の一部である価値体系を基礎としてきたということが、スカウティングの重要な特徴のひとつとなっています。

スカウト運動 運動全体にとっての価値観は、その運動の原理に表現されています。その原理とは、理想的な社会の将来像、スカウトの加盟員全員に対する行動規範を表す、基本的信条です。スカウティングの原理、つまりスカウティングの価値観は、次の3つのカテゴリーにまとめられます。：

- 信仰 との関係
- 他、世界、自然との関係
- 「神へのつとめ、他へのつとめ、自分へのつとめ」として、世界スカウト機構憲章にも明記されている、自分自身との関係



© WSB Inc. / Nuno Perestrelo

## RELATED TO THE IDEA OF SERVICE AND LOVE

奉仕と愛の考えに関係して

「幸せになる本当の道は、他の人たちを幸せにすることです。」というベーデン＝パウエルのメッセージにあるように、スカウティングは、個人の幸せと存在意義が、人間の尊厳に対する責任から生まれるという信念に基づき、3つの原理を関連づけています。愛と奉仕によって、一人ひとりがお互いと、あるいは自然と共生し、社会を改善することができるのです。<sup>9</sup>

スカウティングは、多様な文化的、宗教的独自性を尊重する教育的運動であるがゆえに、若者が人生の答えを探し出す上での支援や、目的や意義、内面的な強さを発見する過程を通して、対話を創出し、個人的および集団的成長を達成させることもできるのです。従って、スカウト運動の原理は、人々に対する差別に利用されてはいけません。むしろ、運動の教育的取り組みの基礎となる「スカウトのおきて」上の一連の明確な価値観の基本とならなければなりません。

この取り組みは、ユネスコが表明した「21世紀における教育の基本目標」に一致します。その基本目標とは、「他者および自然と関係することにより、人間の尊厳や能力、福祉の持続、向上させる」ことに基づく、「生命や人間としての尊厳の尊重、平等な権利と社会正義、文化的、社会的多様性、人類の連帯意識、我々の共通の未来に対する共有責任」です。<sup>10</sup> これを背景に、各国スカウト連盟は、その加盟員に、「スカウトのちかいとおきて」における各連盟独自の文言、あるいは必要に応じて、スカウト運動の主な価値観を彼ら独自の文化に適応させた代替りの文言を設定しています。

## SCOUTING REJECTS INDOCTRINATION

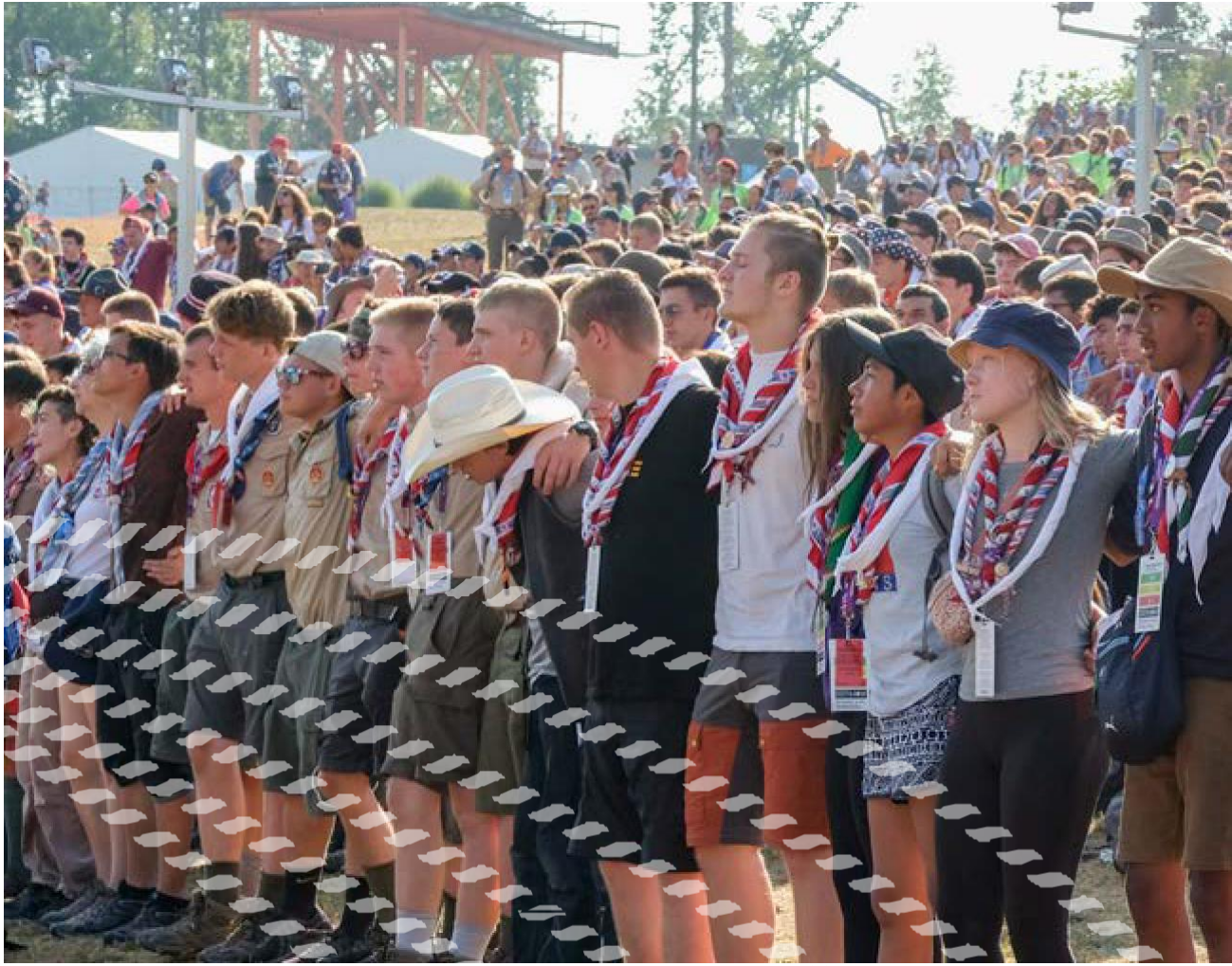
スカウティングにおける洗脳（押しつけ）の否定

価値観は、スカウティングの教育と経験において、とりわけ重要な役割を果たしています。スカウティングは、人に押しつけることを認めません。その代わりに、青少年が批判的に思考し、疑問から学び、事実を検証し、自分たちの行動に反映させる能力を伸ばします。

9 「『スカウトのちかい』において、私は、『神へのつとめ』を、少年が理解できる積極的活動の具体的な形として意図的に取り入れました。小さな子供には、『神を愛する』ような心的状況は理解できませんが、良い行いをするのが神への奉仕のひとつの形であることは理解できるのです。」（ロバート・ベーデン＝パウエル、1920）

10 「教育を再考する－教育はグローバルな共有財になりうるか？」ユネスコ（2015）







© WSB Inc. / Jean-Pierre Pouteau

# SCOUTING'S DEFINING ELEMENTS

スカウティングを定義づける要因





## A Movement...

## 運動...

© World Scout Bureau Inc. / Enrique Leon

### A GLOBAL MOVEMENT ROOTED IN LOCAL COMMUNITIES

地域社会に根差した世界的運動

世界中のスカウトたちは、自分たちがスカウト運動の加盟員であることを認識しています。スカウティングは、ひとつの運動です。なぜなら、同じ価値観を有し、共通の目的を積極的に達成しようとする個人が集まる大人数の集団によって公認されているからです。これは、スカウティングが地域社会に深く根差し、各地域の現実を踏まえたものであることから明らかです。スカウティングの目的の強みは、この目的が、運動の加盟員が、性別、国籍、人種や宗教に関わらず、目的の達成に取り組んでいるすべての場所で受け入れられていることです。

運動としてのスカウティングは、以下の特徴を有します。

### FLEXIBLE TO REACH ITS PURPOSE

目的の達成に柔軟に対処する

運動は、常に動的であるべきで、静止することはできません。定義によれば、また本質的にも、運動は、目的を達成するために進化します。スカウティングは、特定の時間と場所における青少年のニーズを満たすために、時間をかけて進化し、その目的を達成します。スカウティングは、隔絶された状況ではなく、絶えずめまぐるしく変化する社会で機能するため、常に、あらゆるレベルの取り組み方を変化させ、順応し、柔軟に目的を達成できなければなりません。

この二重性、つまり、目的を達成する必要性と同時に、柔軟かつ動的に機能する必要性は、スカウティングの重要な特徴です。スカウティングの目的を達成することから逸れることは、運動の独自性を失うこと、つまり混乱につながります。一方で、目的を達成するために硬直した、柔軟性に欠ける取り組みを行うことは、等しく運動に害を及ぼすことになります。



**UNITY  
THROUGH A  
COMMON  
SET OF VALUES**  
共通の価値観に  
よる結束

運動には結束が必要です。この結束は、加盟員の中に帰属意識を芽生えさせ、彼らの運動への帰属を可能にする共通の価値観と教育法を通して、共通の目的を共有することから生まれます。

結束は、均一性を意味するものではなく、加盟員の多様性を否定するものでもありません。しかしながら、結束には、運動に関わる全ての加盟員が、運動が存在するための基準となっている基本的要素を忠実に守ることが必要です。スカウティングの場合、これらの基本要素が、スカウティングの目的、原理、そして教育法となっています。運動における結束を維持させるため、あらゆるレベルの組織と過程で、これらの基本要素を尊重することが、加盟員全ての義務です。



© World Scout Bureau Inc. / Jean-Pierre Pouteau

**AN ORGANISATION  
SHOULD NOT BE A  
GOAL IN ITSELF**  
組織は、それ自体が目的  
となってはいけない

運動は、組織によって支えられています。運動に活力を与え、国境を越えてその加盟員を結束させるには、運動は、ある種の構造あるいは組織を必要とします。組織あるいは構造を有することが、決してそれ自体の目的ではないことを念頭に置くことが大切です。

世界スカウト機構、各国スカウト連盟、そしてそれらの中にある、またそれらを超えたあらゆる組織は、スカウティングの目的の達成において動的であること、運動の結束を継続させることといった共通の発想のもとに設立されました。これは、あらゆるレベルにおけるあらゆる組織の共通の目的です。この組織の全てのレベルの指導者は草の根レベルに対する奉仕者でなくてはなりません。つまりスカウトの為にあるということです。

ベーデン-パウエルは、運動を管理することや、「単なる組織」で終わらせないよう注意することの大切さを書いています。組織の原理ではなく、「単なる組織」の原理、すなわち、それ自体のためだけに存在し、運動とその目的に役立たない構造を批判しているのです。

これらの要素のおかげで、スカウティングは、着実に、唯一無二の世界的運動、つまり世界最大の青少年のための自発的な教育的運動に成長することができたのです。



For young people...

青少年のための...

© World Scout Bureau Inc. / Portugal

## A MOVEMENT OF AND FOR YOUNG PEOPLE SUPPORTED BY ADULTS

成人に支えられた  
「青少年の」そして  
「青少年のための」  
運動

スカウティングは、青少年のための運動として、青少年に対する教育的課題に取り組んでいます。青少年が子供から大人に成長する過程で彼らに寄り添い、彼らが安全な環境の中で、積極的な市民になるために必要な能力や行動、価値観、態度を伸ばす手助けをします。

それは、成人に支えられた、青少年の、そして青少年のための運動です。すなわち、成人が自分たちのために青少年を管理する運動ではありません。スカウティングは、青少年と成人が、彼らの情熱と経験を活かしながらお互いに協力し合い、学べる社会の可能性を提供します。

スカウティングは、青少年の成長を促すために、人種や性別、年齢、宗教、身分、能力、経験、背景に関わらず、全ての青少年のために存在します。そして、それが青少年の運動でもある理由なのです。より多くの青少年がスカウティングを経験すればするほど、スカウティングから多くのものを学び、そこに留まり、好結果を出し、自分たちの潜在能力を発揮する可能性も高くなります。

スカウティングの教育を施す対象年齢に関しては、国によって色々な傾向がありますが、本件を規定する絶対的な規則があるわけではありません。各国スカウト連盟が、各連盟内で、適用年齢を決定します。しかしながら、青少年の運動としては、青年期および成人早期の年齢を超えて、つまり、大抵の場合、20代前半から半ばにかけての若者に対し、青少年プログラムを適用させることは適切ではないでしょう。

一方で、スカウト教育法は、発育上適切なレベルに達している幼児にも適用可能です。スカウティングには、少人数のグループで指導力を発揮する能力と同時に、適切な言葉で表現された「スカウトのちかい」と随伴する「スカウトのおきて」における行動規範に各自が責務を負うという概念に対する理解が必要とされるのです。



© World Scout Bureau Inc. / Nuno Perestrelo

**PARTICULARLY  
RELEVANT FOR  
ADOLESCENT AGE  
RANGE**

青年期の年齢層に  
対する意義

スカウティングは、とりわけ、青年期の年齢層にとって意義があります。青少年の成長に対するスカウティングの貢献は、青少年の具体的な発達段階によって異なります。特に青年に対しては、スカウト教育法は、彼らの自己決定能力を伸ばし、自主性を高める機会を与え、依存から、独立、そして相互協力へと導きます。

**INTER-  
GENERATIONAL  
DIALOGUE**

世代間の対話

スカウティングには、高いレベルの世代間の対話が必要です。スカウトの指導者は、おそらく、青少年が活動を共にする初めての大人です。スカウティングは、目標を定めた、双方にとって有益な活動において、人々を結束させます。その活動により、世代間の理解と尊重が高まり、より団結したコミュニティの構築が可能になります。スカウティングにおける世代間の活動は、包容的かつ協力的で、若者と大人が互いに、また彼らの周りの人々に与えなければならない肯定的要因に支えられています。





## Voluntary

© World Scout Bureau Inc. / Jean-Pierre Pouteau

### 自発的な

#### NO COMPULSION TO JOIN THE MOVEMENT

強制ではない運動  
への参加

自主性とは、強制ではなく、自由選択によって物事を積極的に行う、請け負う、あるいはもたらすことです。スカウト運動における自主性という特徴は、加盟員が、自国のスカウト連盟からの教育的提案を受け入れるにあたり、自分自身の自由意思により運動に関わっているという事実を強調しています。

スカウト運動に参加、あるいは加盟員として留まる にあたり強制はありません。よって、青少年は、いつ運動に参加し、いつ辞めるか自分で選ぶことができます。この自主性を重んじた加盟制度は、等しく、成人指導者にも適用されます。彼らは、青少年が、自己実現できる個人として、また積極的な地球市民としての可能性を十分に発揮できるよう手助けするという重要な役割を果たしています。

スカウト運動の加盟制度は、自由選択によって支えられています。スカウティングが加盟員に提供する活動における妥当性と魅力は、今日の青少年の動向に対処することによって、彼らの興味を引き付け続けています。運動そのものが、ダイナミック かつ活動的であるべきであり、またそのように見なされなければなりません。

#### A VOLUNTARY COMMITMENT IS AN ESSENTIAL COMPONENT OF SCOUTING'S EDUCATIONAL PROCESS

自主的取り組みは、  
スカウティングの  
教育課程における  
重要な要素である

見返りとして、スカウト運動には、個人の加盟員が、運動の基本的価値および目的に対して、並びに、すべての人々が、自由に生活でき、お互いに、また自然と調和することのできる社会構築に対して責任を負うことが必要とされます。この責任は、「スカウトのちかい」を実行することによって達成されます。「スカウトのちかい」には、これらの理想に基づく生活規範を順守するために最善を尽くそうとする積極的意志が公的に表現されています。

このスカウト運動に対する自主的な取り組みは、スカウティングの教育的目標の達成にも繋がります。これは、青少年加盟員の個人的成長に関連して、彼ら加盟員に適用されます。実際、自主的取り組みは、スカウティングの教育課程の重要な要素であり、それにより、自身の成長をコントロールし、個人的目標を設定できるようになり、動機付けや個人の行動、自主独立などにも良い影響が及ぼされます。

活動や学びの機会は、急速に変化する世界において、妥当かつ魅力的なものとなるよう、青少年と一緒に決め、つくられなければなりません。国によっては、スカウティングは、地域よりも学校が基盤となっています。その場合も、スカウティングの自主性を重んじる特徴が見られ、加盟員は、自発的に「スカウトのちかいとおきて」を受け入れ、スカウティングにおける行動的な加盟員になります。

## ADULTS COMMITTED TO FACILITATE THE DEVELOPMENT AND EMPOWERMENT OF YOUNG PEOPLE

青少年の成長と能力  
向上に尽力する成人

スカウト運動における成人は、また、スカウティングの目的、原理そして手法に全力で取り組まなければなりません。なぜなら、直接的であれ、間接的であれ、青少年加盟員がその可能性を十分に発揮できるよう手助けすることが彼らの役割だからです。成人は、運動に参加し、関わることによって、青少年の成長と能力向上に全力を尽くす責務があります。それによって、運動に関わる全てのメンバー間、すなわち、青少年と成人、ボランティアスタッフと専従職員間で、強い責任感と協調意識を共有することが可能になります。

成人が、その奉仕や費やした時間に対して報酬をもらうことなく、彼ら自身の合意を持って、自由かつ積極的に、指導能力を発揮して運動を支援することもまた、スカウト運動の自発的な性質から生まれるものです。自発的運動における成人一人ひとりが、自分らしいやり方で、自身の技能、才能、使える時間に従って、共通の目標を達成することに貢献しています。



© World Scout Bureau Inc.

## SCOUTING BENEFITS FROM PAID PROFESSIONALS

有給専従職員が提供  
するスカウティング  
の恩恵

スカウティングは、自発的運動である一方で、必要に応じて、その活動を支援しているフルタイム、またはパートタイムの有給専従職員から恩恵を受けています。必要があり、資金が許せば、スカウティングの目的の効果的、効率的な達成に必要な、特定の役割を遂行するための人間を何人か雇用することができます。専従職員の活用や、ボランティアスタッフと専従職員の協力関係が、運動を強化し、その有効性を高めます。

自発的運動は、人種や性別、年齢、宗教、身分、経験、背景に関わらず、あらゆるレベルにおいて、全ての加盟員が意思決定プロセスに参画することにかかっています。有給専従職員は、運動における共有者、すなわち「利害関係者」として、民主的やり方で、業務運営に積極的に参画しなければなりません。

スカウティングは、ボランティア活動を基盤としています。それは、私たちの社会において、スカウティングを活動的で影響力の強いものに行っているスカウティングの重要な特徴のひとつとなっています。



## Open to all...

### 全ての青少年に開かれた...

#### ACCEPTING ALL THOSE WHO ARE PREPARED TO LEARN AND GROW THROUGH SCOUTING

スカウティングを通して  
学び、成長する心構えが  
ある全ての青少年の受け  
入れ

スカウティングは、青少年一人ひとりが、人生に対する肯定的な価値観と能力によって力を与えられ、その結果、充実した人生を送り、積極的に社会に貢献できるようになるという、楽観的な考えに基づいています。しかしながら、教育課程自体が始まる前に、教育の結果が達成されることを期待してはいけません。なぜなら、スカウティングは、積極的にその原則に従い、その教育法を实践する全ての青少年のためにあるからです。

スカウティングに参画するかしないかの最終決定は、青少年の手中にあります。なぜなら、このような誓いを立てる心構えがあるかどうか決めることができるのは、青少年自身しかいないからです。その青少年がスカウト運動に適しているかどうかを決めるのは、また、彼らの特定の集団(隊や団)の採用を制限するのは、成人ではありません。スカウティングは、教育的運動であるがゆえに、スカウティングを通して学び、成長する心構えがある全ての青少年を受け入れなければなりません。

以上が、スカウティングが、青少年のあらゆる状況における見えない壁を打ち破り、「青少年が、民族、人種、社会、経済状況や在留資格、宗教、障害、性的指向、性同一性などに関わらず、尊敬、受容、寛容の念をもって他者に接することができる」<sup>11</sup>よう、全ての青少年に開かれていなければならない理由です。これは、スカウティングにおける、包摂性に関する共通価値観が、信念だけでなく、実践にならなければならない、という方針に一致します。つまり、「スカウトは、良いことをするのに積極的であり、善良でいることに消極的になってはならないのです。

#### COMMITMENT WITH COEDUCATION AND TO ERADICATE GENDER DISCRIMINATION

男女共学と性差別の  
根絶に対する方針

スカウティングにおける包摂性の方針は、積極的な取り組みのひとつです。それは、個人の多様性を重視することにより、全ての人々に平等の権利と機会を与え、各個人を可能な限り、活動に関与させ、参加させることを意味します。さらに、それは、組織に関する様々な方法論、戦略、構造や資金援助によって支えられ、開放的な環境の構築や、多様性の尊重、人権支援、あらゆる形態の偏見や差別に対する断固とした抵抗によって実現される、近づきやすさを意味します。

スカウティングは、また、性別を超えた教育的運動であり、個別のニーズを考慮に入れながら、少年少女が同じ組織内で教育を受ける男女共学の手法を採用し、全ての青少年が有する平等の権利を保証しています。その学習者主体の取り組みに従い、スカウト活動は、青少年加盟員全てのニーズと関心に応えられるように共同で創り出さなければなりません。同じく、その教育的目標には、搾取や暴力から逃れる権利や、性と生殖に関する権利といった女性や少女が有する基本的権利、および、あらゆる形態の性差別や暴力、彼女らを抑圧する不平等に対する関心への理解が含まれなければなりません。



## OPENNESS TO ALL MEANS REACHING YOUNG PEOPLE WHO NEED SCOUTING MOST

全ての人間を対象に  
するという事は、  
スカウティングを最  
も必要としている青  
少年に手を差し伸べ  
ることを意味する

全ての人々に門戸が開かれているということは、スカウティングが、それを一番必要としている青少年に手を差し伸べられるよう意識的に取り組まなければならないことも意味します。例えば、普段の生活において困難を抱えていて、彼らのコミュニティに容易に受け入れられないかもしれない子供や青少年であっても、運動の原則を遵守する ために最善を尽くす心構えができるかもしれないのです。柔軟性に欠ける実践は、異なる社会環境における青少年に手を差し伸べることを難しくする可能性があります。スカウティングが、真に全ての人々、とりわけそれを最も必要としている人々を対象にするには、その目的、原理、教育法を犠牲にすることなく順応させることが必要とされます。

スカウティングが、教育的運動として、いかなる差別もなく、全ての青少年を対象にしなければならない一方で、成人の場合は、状況が異なります。スカウティングは、運動において、教育的機能を担うことを望む人々を積極的に受け入れなければなりません。候補者は、人種や性別、年齢、宗教、身分、経験や背景などで差別できませんが、スカウティングの第一の任務は、青少年加盟員を虐待から守ることであります。



© WSB Inc. / Edward Zaikin

## THE IMPERATIVE OF PROTECTING YOUNG PEOPLE MUST GUIDE US IN RECRUITING ADULT LEADERS

青少年を守る責務は、  
成人指導者の採用に  
おける指標とならな  
ければならない

教育的任務への参画を希望する人々に対し、スカウティングは、医療従事者の基本である「まず、害を与えてはならない」という指針を与えなければなりません。青少年を守る責務は、成人指導者の採用における指標です。運動において教育的職務に就こうとする者は、彼らの尊厳を尊重し、あらゆる手段を講じて身体と心の安全に必要な状況を確認しながら、青少年と成人の間に純粋な教育的関係を築くのに必要な成熟度と精神的バランスを備えることができるよう、支援されなければなりません。

この第一の基準が満たされれば、候補者は、トレーニングを受けて、自身が望む職務に必要なスキルを身につけなければなりません。必要なスキルを習得した後でなければ、正式に任命されることはなく、また、任務の期間は限定的である必要もあります。青少年リーダーが、成人同様、青少年を尊重し、その成長を助けるために必要な言動とスキルを確実に身に着けるためには、青少年リーダーの継続的なサポートと評価が不可欠です。

11 「世界人権宣言」国際連合（1948）、国際連合人権理事会 32/2（2016）、「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」— 証拠に基づくアプローチ、ユネスコ（UNESCO）、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、国連人口基金（UNFPA）、ユニセフ（UNICEF）、国連女性機関（2018）



© WSB Inc. / Victor Ortega

## Non-political...

### 非政治的な...

#### THE SCOUT MOVEMENT MUST NOT BE IDENTIFIED WITH POLITICAL PARTIES

スカウト運動は、政治団体に属してはいけません

教育的運動としてスカウティングの非政治的性質を説明する上で、次の2者を区別する必要があります。

- ・ 社会的（政界における）勢力としての運動とその組織
- ・ スカウト運動の加盟員としての個人

社会的勢力として、スカウト運動と各国連盟は、民主主義社会において常に政治の反映である政治団体に属してはいけません。連盟の声明や出版物においても、あるいは連盟のいかなる代表も、民主主義における団体、あるいは、その他の明確に構造化された政治集団に属してはいけません。なぜなら、それが運動の独立性に反することになるからです。

スカウティングが独立した非政治的運動でなければならない理由は簡単です。ベーデン-パウエルは、「危険は、物事を行う過程の中で、自分自身で判断する練習、あるいは良心に従う練習をしないままに、結論を下すことに慣れてしまう人々の中に潜んでいます。」と書いています。そして、こう結論づけています。「個人の判断力が重要なのです。」

以上が、スカウティングが、青少年が、自分自身で能力や自律性を伸ばすことができるよう後押しすることを目的とした教育的運動である所以です。この取り組みには、教育課程における完全な中立性が必要とされます。唯一の制約は、スカウティングの礎となっている原理や価値観です。スカウト運動が、政治団体に属することは、スカウティングが体現する個人主体の教育的取り組みの特徴である、客観性と中立性を脅かすこととなります。

しかしながら、これは、スカウティングが、社会政治的現実とまったく無縁であることを意味するものではありません。スカウト運動自体が、社会的現実であり、その目的は、青少年が、責任ある個人、行動的な社会の一員として成長できるよう支援することです。当然、この市民教育は、単独で行うことはできません。スカウト運動は、その価値観と原理を守りながら、スカウト運動が支援する青少年同様、スカウト運動と社会双方にとっても、できる限り最善の条件で、運動が提供するタイプの教育を擁護できなければなりません。



結果的にスカウト運動が「子供の権利条約」や現在の事項でいえば「持続可能な開発目標」といった事柄に基づく姿勢をとることを妨げるものではありません。というのもこれらの事項は明らかに本運動の憲章や原則に基づいた教育的ミッションとも合致し、特定の政治政党のものではなく広く認められているものであるからです。しかしながら、運動の擁護的立場は、常に教育的ツールでなければならず、その結果、青少年に、自問しながらじっくり考えることができる能力を与えなければなりません。

スカウト運動の加盟員である個人としては、状況がいささか異なります。スカウティングは、青少年が、自立した個人として、また、積極的地球市民として成長できるよう支援します。

地球市民であるということは、全ての人間が持つ平等な尊厳、自然と人間との調和の中で生活できる社会を築くことに対して責任を持つということの意味します。そして、ベーデン＝パウエルが言うように、スカウティングにおける「世界人権宣言」に対する責任はまた、青少年に、運動における包括的な共通の価値観のもと、熟考し、探知し、事実を確認し、不当な行為に立ち向かい<sup>12</sup>、社会の模範となる能力を伸ばしながら、「自己判断能力」を身に付けさせることを意味しています。



© WSB Inc. / Jean-Pierre Pouteau

スカウティングは、その加盟員が、社会活動に参加し、地域に積極的に貢献できるよう支援します。なぜなら、青少年が積極的な地球市民になれるよう後押しすることは、必然的に、彼らが、地域のおよび国際的な観点から、自分自身の行動についてよく考え、十分な情報に基づいた判断を下し、環境保全や経済的継続性、現在と未来の世代にとっての公正な社会に対する責任ある行動をとることができるようになることにつながるからです<sup>13</sup>。

市民としての責任を果たしていれば、何事も、スカウト運動の加盟員が政治団体の活動メンバーになることを妨げるものではありません。加盟員が、個人として政治団体に所属する場合、その団体の基本的価値観が、本人がスカウトとして信じる価値観と一致していれば、スカウト運動の加盟員であることに抵触することはありません。スカウトが個人として政治団体を支持する場合、いかなる状況においても、スカウティングをその所属団体の宣伝材料として利用してはいけません。また、スカウティングを政治勢力のために利用することのリスクを認識していなければなりません。

12. 「教育による暴力的過激主義の防止」ユネスコ（2017）

13. 「持続可能な開発目標のための教育—学習の目的」ユネスコ（2017）





© WSB Inc. / Hank Hyungkyu Jang

## Independent...

### 独立した...

#### **SAFEGUARDING OUR SPECIFIC IDENTITY**

#### 独自性の保護

スカウティングは、あらゆるレベルにおいて、つまり、団や県連盟、国連盟、国際において、その目的、原理、価値観、方法に基づく明確な独自性を有しています。

スカウティングは、その独自性が維持さえされていれば、教育的目的を完全に達成することができます。例えば、他の組織や機関と非常に密接につながっていたり、影響を受けることによって、この独自性が失われたり減退することは、必然的に、スカウト運動に悪影響を与えます。それゆえ、各国スカウト連盟は、自主決定により自由に決断できる力を備えていなければなりません。すなわち、公的機関や社会機関、宗教団体などから影響を受けることなく、権限を行使することが可能でなければなりません。

これは、スカウティングが、単独で運営されなければならないということの意味するものではありません。さらに、他の組織や機関からの協力を拒否しなければならないということでもありません。実際、スカウティングが今日のような世界的な運動に発展したのは、その歴史を通して、一般の人々や組織から受け入れられ、支援を受けてきたからです。つまり、いかなる支援の申し出や受け入れも、また、他の組織や機関とのいかなる協力形態も、それが、スカウティングが目指すもの、すなわち、その教育的目的に役立つ場合にのみ、正当化されるといえます。スカウト運動の目的を達成するためには、自由に他の組織や公的機関と協力しても構いません。但し、その場合は、スカウティングが、その独立性や、独自性、一般倫理を失うリスクがないよう、運動のあらゆるレベルにおいて注意する必要があります。

それゆえ、スカウト運動におけるあらゆる活動は、支援団体や、業務協力者、類似団体、政府当局など、他の組織との関係に気を配り、運動の独自性と独立性が、それらと関係することで損なわれることがないようにしなければなりません。

例えば:

- 青少年を対象とする他の教育組織と協力することにより、スカウティングの独立性や青少年教育における独自の役割が失われたり、損ねられたりしてはいけません。
- スカウティングが、宗教組織や地域組織から支援されることにより、各国スカウト組織が、それらの組織に管理されたり、従属していると見なされたりしてはいけません。
- スカウティングが、地域当局や国家当局とつながることにより、スカウト運動の自発的行為、社会におけるノンフォーマル教育という役割が疑問視されるようなことがあってはいけません。
- スカウティングが、開発機関を支援することにより、スカウト運動自体が、青少年教育に独自の貢献をする運動としてではなく、開発機関として見なされることがあってはいけません。

最後に、スカウト運動は、その性質と独自性が、国際的に定義され、全ての各国スカウト連盟によって同意されることによって守られている、ということを知っておくことが重要です。



© WSB Inc. / Jean-Pierre Pouteau





© WSB Inc. / Enrique León

# APPENDIX: ADDITIONAL READING

## 付録： 補助書籍・文書

Useful and complementary documents on the issues addressed in this document:

- Scouting for Boys, Robert Baden-Powell, [1908] 1944
- Aids to Scoutmastership: A Handbook for Scoutmasters on the Theory of Scout Training, Robert Baden-Powell, 1919
- Constitution of the World Organization of the Scout Movement, World Scout Bureau, August 2017
- World Scout Youth Programme Policy, World Scout Bureau, December 2017
- The Scout Method, November 2019
- Adults in Scouting World Policy, World Scout Bureau, September 2017
- World Scout Youth Involvement Policy, World Scout Bureau, February 2015
- Diversity and Inclusion in Scouting, WOSM's Position Paper, World Scout Bureau, May 2017
- World Safe from Harm Policy, World Scout Bureau, December 2017
- Scouting: an Educational System, World Scout Bureau, 1998
- Scouting for What? Scouting for Whom?, World Scout Bureau, 1997

本資料で取り上げた事項について有用な補足資料

- 『スカウティング・フォア・ボーイズ』ロバート・ベーデン-パウエル [1908] (1944)
- 『隊長の手引き—スカウト訓練理論における隊長のための手引書—』ロバート・ベーデン-パウエル (1919)
- 「世界スカウト機構憲章」世界スカウト事務局 (2017、8月)
- 「世界青少年プログラム方針」世界スカウト事務局 (2017、12月)
- 「スカウト教育法」 (2019、11月)
- 「スカウティングにおける成人に関する世界方針」世界スカウト事務局 (2017、9月)
- 「世界スカウト青少年参画方針」世界スカウト事務局 (2015、2月)
- 「スカウティングにおける多様性と包摂性」世界スカウト機構方針説明書、世界スカウト事務局 (2017、5月)
- 「世界セーフ・フロム・ハーム方針」世界スカウト事務局 (2017、12月)
- 「スカウティング：一つの教育システム」世界スカウト事務局 (1998)
- 「何のためのスカウティング？ 誰のためのスカウティング？」世界スカウト事務局 (1997)





**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World



**SCOUTS**<sup>®</sup>  
Creating a Better World

© World Scout Bureau Inc.  
Scouting Development  
November 2019

World Scout Bureau Global Support Centre  
Kuala Lumpur

Suite 3, Level 17  
Menara Sentral Vista  
150 Jalan Sultan Abdul Samad  
Brickfields, 50470 Kuala Lumpur  
MALAYSIA  
Tel.: + 60 3 2276 9000  
Fax: + 60 3 2276 9089  
worldbureau@scout.org  
scout.org

© 2019. World Organization of the Scout  
Movement.  
All rights reserved.